

令和5年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	島根県松江市殿町1番地
管理機関名	島根県教育委員会
代表者	教育長 野津 建二

令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和4年4月1日（契約締結日）～ 令和5年3月31日

2 指定校名・類型

学校名	島根県立矢上高等学校
学校長名	駒川一彦
類型	地域魅力化型

3 研究開発名

おおなん協育プロジェクト  
～邑南町総がかり！協働で育む“協育”カリキュラムの開発～

4 研究開発概要

本校普通科において、地域人材を育成するためには、地域に飛び込み、地域住民と関わる中で課題を見つけ、多様な人々と協働し、教科や地域の歴史や文化といった様々な知恵を結集させ、課題解決を実践するカリキュラムを作ることが重要である。

令和2年度はコロナ禍で当初予定の地域協働活動が行えなかったが、カリキュラム・教材開発や体制の整備を図り、実施の準備が整った。さらに、本事業コンソーシアムを包含する「矢上高校と地域の未来をつくる会(コンソーシアム)」を令和3年3月に設立した。

令和3年度は、令和2年度の振り返りに基づき、開発した教材や整備した体制を検証する期間としてコロナ禍ではあったものの地域と協働した取り組みを行い、島根県立大学や邑南町との協議を継続して実施し、矢上高校での“協育”カリキュラムを整備し直した。

最終年度である令和4年度は、2年間のカリキュラムの確立とともに、本校の課題である、教科横断のための手立てや校内での取組体制を強化し、地域と学校が持続可能な協働活動ができる仕組みづくりに着手する。具体的には、次の4点に取り組む。

- I：総合的な探究の時間のモデル化
- II：教科横断の土台の構築
- III：地域とともにある学校設定教科『起業探究』の確立
- IV：自走体制の構築

#### I：総合的な探究の時間のモデル化

この2年間で、本校における地域との協働した探究のあり方を模索し、探究サイクルを体系化したところである。本事業終了後も、特定の教員ではなく誰もが地域探究活動に取り組めるよう、本校の総合的な探究の時間の教材の整備(更新)や校内の担当教員の育成、地域指導者(協育パートナー)の確保や研修を実施し、地域課題解決型学習の質の担保や向上を図る。

#### II：教科横断の土台の構築

この2年間、コンテンツ・ベースでの教科横断型授業を数回試行した。今後、こうした授業を一層推進するため、教材の確保はもちろん、教科横断の意義を教員に浸透させ、教科連携を促す必要がある。そこで、これまで作り上げた授業内容等を活用するとともに、年間指導計画に基づくコンピテンシー・ベースのカリキュラムマップを作成し、総合的な探究の時間を基軸とした教科連携を図って教科横断が浸透する土台を構築する。

#### III：地域とともにある学校設定教科『起業探究』の確立

学校設定教科実施2年目となるため、引き続き『起業探究Ⅰ』を実施し、新たに『起業探究Ⅱ』を実施する。『起業探究Ⅱ』では、地域おこし協力隊と年間通じて連携し、ユーザーインタビューを繰り返し、ビジネスプランコンテストへの入賞を目指す。『起業探究Ⅰ』では前年度の良さを取り入れるとともに、「起業マインド」を醸成するため、地域企業と連携し、企業の課題解決策を検討するなど地域企業の魅力発見の場としても活用する。

#### IV：自走体制の構築

最終年度終了後も、持続する地域と学校の体制が必要である。そこで、事業にかかる資金、制度、保険等を整備し、本コンソーシアムを自走可能な体制へ移行させる。

### 5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目  開設している      ・  開設していない
- ・教育課程の特例の活用  活用している      ・  活用していない

### 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
日高輝和	邑南町 副町長	
馬庭寿美代	島根県教育委員会 企画幹	
白石絢也	一般社団法人小さな拠点ネットワーク研究所	
清國祐二	大分大学大学院教育学研究科教授	

### 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
邑南町	町長 石橋良治
島根県議会	議員 福井竜夫
浜田市役所	旭支所長 西川修二

邑南町議会	議長 石橋純二
島根県立矢上高等学校	校長 駒川一彦
矢上高校卒業生会	会長 辰田直久
島根大学教育学部	教授 作野広和
島根県立大学総合政策学部	教授 赤坂一念
矢上高校 PTA	会長 寺本英仁
矢上高校地域応援団	委員長 小泉篤
邑南町教育委員会	教育長 土居達也／大橋寛
邑南町立羽須美中学校	校長 竹下和宏
邑南町立瑞穂中学校	校長 永岡靖
邑南町立石見中学校	校長 樽田真治
島根県立石見養護学校	校長 中村厚子
邑南町商工会	副会長 小泉賢咲
邑南町進出企業会	会長 井上正行
JA しまね島根おおち地区本部	本部長 服部幸信
公立邑智病院	事務部長 日高武英
医療法人徳祐会	理事長 三上厳信
島根県教育委員会教育指導課	企画幹 馬庭寿美代

## 8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	作野広和	島根大学教育学部教授	非常勤
地域協働学習支援員	小林圭介	一般社団法人地域商社ビレッジ プライド邑南	常勤

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

実施項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
グランドデザインの実現(特に高校魅力化コンソーシアム)	研修①												研修③
		教育庁各課横断の伴走											
学校運営協議会			研修										
探究学習推進	担当者設定	研修①		ミニ研修①						ミニ研修②		ミニ研修③	しまね探究フェスタ・研修②③
		探究指導主事の伴走											

魅力化コーディネーター		研修	グランドデザイン研修・探究担当者研修への参加呼びかけ										配置決定
											コーディネーター訪問		
高校魅力化評価システムによる調査・検証		調査	フィードバック	研修	各校の検証								
人員配置		予算要求										配置決定	

(2) 実績の説明

①運営指導委員会の開催・授業や発表会への参加等

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会の実施			第1回									
コンソーシアム役員会への参加		第1回					第2回					第3回
授業への参加・参観			○				○					
成果発表会への参加・助言										○		
事業の広報										○	○	

②体制支援・活動支援

グランドデザインの実現 (特に高校魅力化コンソーシアムへの支援)	島根県では令和3年度末に全県立高校がグランドデザインにもとづく高校魅力化コンソーシアムを構築。各校のグランドデザインの着実な実現を図るため、グランドデザインPDCA研修を実施。高校の管理職(校長・教頭)または主幹教諭、市町村担当者、コンソーシアム関係者等から各1名ずつの3名がコアチームを形成し参加。
地域との協働体制 (特に学校運営協議会への支援)	学校運営協議会の構築や運営に係る研修を実施。
探究学習推進	令和2年度から教育庁に探究学習専任指導主事を配置。あわせて探究学習を推進する教員を各校1名設定し研修を実施(必修研修、希望者によるミニ研修)。探究学習に係る経費を支援し、高校生・教員が探究学習の成果を発表する場(「しまね探究フェスタ」)を開催。その他、年間を通じた助言等。
魅力化コーディネーター研修	市町村等で配置されている魅力化コーディネーターの質の向上とネットワーク作りを目指し研修を実施。

高校魅力化評価システムの構築と活用研修	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するため、生徒と地域に対し魅力化アンケートを実施。その活用を図るため、アンケート結果の読み解きや学校の事例検討を含めた研修を実施。
人員配置	新しい高校づくりに向かう体制構築として、県単独加配の主幹教諭をR4年度末までに普通科高校へ21名配置。さらに、R3～4年度は高大連携を推進する職員を3名配置。R5年度はさらに1名を追加配置予定。

### ③事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・「教育魅力化人づくり推進事業」の継続や教育庁の伴走体制の強化による学校・コンソーシアム支援の継続
- ・各校が作成したランドデザイン実現に向けた取組のさらなる推進  
(コンソーシアム運営や学校運営協議会に関する研修、「高校魅力化評価システム」等を活用したPDCAサイクルの構築等)
- ・探究学習推進担当者研修の継続・充実
- ・高校魅力化コーディネーターの確保・育成
- ・クラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得についての研究の継続、知見の共有

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
I:総合的な探究の時間のモデル化	1年	・探究オリエン ・インタビュー	・インタビュー ・プチ探究	・プチ探究	・プレゼン
	2年	・探究活動 ・ワークショップ	・探究活動	・探究活動 ・発表会	・ふりかえり ・模擬選挙
	3年	・企業説明会 ・1日インターン	・個人探究	・個人探究 ・発表会	・はばたき講座
II:教科横断の土台の構築		・教科横断研修	・(国語連携)インタビュー:1年		・(公民科連携)政策決定:2年
III:地域とともにある学校設定教科『起業探究』の確立	2年	・農作業 ・チームビルディング	・マーケティング ・ビジコン応募	・収穫 ・商品加工 ・販売	・起業家講演 ・観光プラン作成
	3年	・起業探究II開始 ・マーケティング	・ビジコン応募	・商品開発 ・販売	・発表 ・修了証発行
IV:自走体制の構築		・法人化に向けた体制検討	・法人化に向けた体制検討	・法人化に向けた体制検討	・法人化に向けた体制検討

### (2) 実績の説明

#### [1]研究開発の内容や地域課題研究の内容について

<インタビュー(1年生)>

国語の「話すこと・聞くこと」単元と連携し、12名の公民館館長へインタビュー活動を行った。

<プチ探究（1年生）>

2年次に実施する探究活動を2学期以降実施し、探究の基礎的な思考スキルの習得を目指した。1、2月に発表会を実施。

<地域課題研究（2年生）>

昨年度同様、10名の町民を「協育パートナー」と認定し、生徒のチームに伴走していただいた。地域課題研究のプロジェクトは下記のとおり（発表会での表記）である。

	発表タイトル	概要
1	三江線・宇都井盛り上げ隊	私たちは宇都井を活性化させようと INAKA イルミのボランティアに参加しました。他にも INAKA イルミのために募金を行いました。また Instagram を使用し、活動内容を投稿しています。
2	郷土の食文化を広げよう	邑南町は現在人口減少、少子高齢化だけではなく、郷土料理も廃れていっている現状があります。そこで邑南町の郷土料理である「角寿司」に注目し、地域の経済も回せるのではないかと思い、日々活動をしています。
3	肉嫌い克服大作戦	私たちの班には肉嫌いの友達がいました。食べないのはもったいないと思い、肉嫌いでも食べたいようになるように調理してみました。結果はおいしいと言ってもらうことができました。今後は他の肉嫌いの人から多角的な視点で意見をもらっていきたいです。
4	日貫の活性化を目指して《スイーツで日貫を盛り上げる》	スイーツで日貫の活性化を目指し、盛り上げるための活動を行いました。「日貫一日」と協力し、カフェ「一揖」で日貫の特産品を使ったスイーツを販売するために試作を重ねています。今後は日貫で作ったスイーツを一揖以外のお店で販売してもらうことです。
5	beauty and welfare ～幅広い世代に美容を届けよう～	幅広い年代の方に美容を届けるために、美容の商品について三瓶の方にお話を聞いたり、自分たちで試作を重ねたりしました。今後商品を作り、病院や高齢者施設に配布したいと考えています。
6	明るい町を目指して	邑南町内にある空き家を活用し、空き家を減らしていく活動の計画を立てています。空き家を活用してコワーキングスペースを作り、明るい町を目指して活動をしています。
7	地域の予防医学を考える	メンバー全員が医療に興味を持つことから、地域の予防医学を考えました。そこで私たちは様々な病気を予防することのできる運動に目を向け、ウォーキングイベントやオリジナル体操を行い、地域の予防医学を高めようとしています。
8	我ら超黄金芋兄弟～芋の力で出羽を救え～	私たちの班では、出羽地域の課題解決のために出羽地域で採れる食材を使って商品化することをテーマに活動しています。今回はサツマイモと玄米を使ってクッキーとパンを販売しました。これからも行事やお祭りなどで販売していきたいです。
9	〇〇〇〇で町おこし!?	私たちのグループは、〇〇〇〇を使って地域を活性化させることを目標に地域の方と交流をしてイベントなどに参加しました。最終的には自分たちでイベントを開けたらいいなと思っています。

10	脱炭素化した町の未来	私たちは邑南町が「脱炭素先行地域」に選定されていることを知りました。そこで、脱炭素先行地域に選定されていること、脱炭素化した町がどうなるかを知ってもらうため、最近注目されているメタバースを使いながら活動をしています。
----	------------	--

< 起業探究（2年生） >

- ・ 起業探究Ⅰ：1学期「価値・価格設定、課題解決＝ビジネス、6次産業（半農半X）、サツマイモ植え付け」、2学期「ビジネスプランコンテスト、商品加工、販売体験」、3学期「観光プランの考案、プレゼン」を実施。
- ・ 起業探究Ⅱ：1学期「ユーザーインタビュー、商品開発」、2学期「ビジネスプランコンテスト、商品開発、ビジネスプランのプレゼン」を実施。

[2] 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容は、次の教科・科目が主に扱っている。

・ 総合的な探究の時間

総合的な探究の時間では、「批判的思考力」「自己肯定感」「表現力」の資質能力の向上をねらいとし、地域との協働による探究的な学びのための学習内容を扱っている。特に2年生は「[1] 研究開発の内容や地域課題研究の内容について」にもあるように、協育パートナーに関わってもらい、地域課題解決を図っている。

[3] 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

教職員研修を実施し、総合的な探究の時間のシラバスを軸に、各教科との関係性について考える時間をとった。その結果、1年生の国語での「話すこと・聞くこと」の単元の延長として、総合的な探究の時間でインタビューを実施した。

[4] 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラム開発等専門家は、学識経験者として、魅力化センターで立案したカリキュラム案や計画について助言し、オンライン等で進捗管理、年度末にはカリキュラムの検証を行う。また、教員対象の研修会、研究授業後の研究会の開催やシンポジウムの講演などを通じ、本事業の意義を校内や地域へ普及させる。地域協働学習実施支援員は魅力化センターの一員に位置付けられ、総合的な探究の時間や教科横断カリキュラム、学校設定教科における外部との調整や教材作成、地域人材の発掘を行う。

[5] 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

主幹教諭、邑南町役場職員、コーディネーターで構成される「矢上高校魅力化推進センター」が本研究体制の中心である。矢上高校魅力化推進センターは、主幹教諭・探究学習担当・コーディネーター・役場担当者で構成される。探究学習担当とコーディネーターが教材開発を行い、推進センター内で共有され、実行される。

[6]カリキュラム開発専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

カリキュラム開発専門家は、邑南町の顧問でもあり、地域の状況に精通している。地域と協働した授業実施の際は、フィールドワークやワークに入っただき、生徒の現状や今後の進め方などをご助言いただいている。

地域協働学習実施支援員は魅力化推進センターに常勤し、主幹教諭と協働し教材作成や地域との接続などに携わっている。

[7]学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画や方法を改善していく仕組みについて

魅力化推進センターにて教材を制作し、学年会を通じて教材の内容確認を行う。また、随時教員へのヒアリング、学年末の評価アンケート等を通じ、内容改善を図る。

[8]カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

一昨年度末に「矢上高校と地域の未来をつくる会（コンソーシアム）」を立ち上げ、部会として本事業を担当し、実行している。

[9]運営指導員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

年3回の運営指導員会、定期的なカリキュラム開発専門家との打ち合わせによって地域との関わりや校内体制などへの指摘を受けた。

[10]類型毎の趣旨に応じた取組について

特になし。

[11]成果の普及方法・実績について

12月に成果発表会（地域未来探究発表会）、1月に学科混同の成果発表会（未来フォーラム）を開催。また、未来フォーラムの後、文部科学省事業シンポジウムを開催。

本校ホームページでも取組を発信。（<https://www.yakami.ed.jp/purpose04/ohnankyouiku/>）

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

	内容	目標値	結果
a	「地域の課題の解決方法について考える」と答える生徒の割合	55%	66.9%
b	「将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う」と答える生徒の割合	45%	51.5%
c	「地域社会などでボランティア活動に参加した」と答える生徒の割合	40%	39.6%

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標

	内容	目標値	結果
a	研究授業等の回数	6回	3回
b	普及・促進のためのワークショップやシンポジウムの開催回数	2回	2回
c	協育プログラム教材の制作及びその公開単元数	4本	10本

### 3. 地域人材を育成する地域としての活動指標

	内容	目標値	結果
a	地域による授業の実施回数（地域でのフィールドワークなどを含む）	8回	10回
b	運営指導員会やカリキュラム開発、コンソーシアム構築・運営のための会議回数	9回	6回

#### <添付資料> 目標設定シート

#### 1 2 次年度以降の課題及び改善点

3年間の事業によって、地域と学校が協力して生徒を育てる体制の一部が構築できた。その意味で、教育課程内で地域とつながるカリキュラムは完成したが、学校全体での取組や教育課程外での取組については課題が残る。

#### 【課題】

##### ■校内体制の改善・促進

本年度、2年生の総合的な探究の時間を担当したのは、主幹教諭・学年主任・担任（2人）・副担任（2人）・探究担当教員・地域協働学習実施支援員の8人であった。さらに地域の協育パートナーが12人関わり、校内外合わせると総勢20人で2年生の総合的な探究の時間を運営していた。引き続き協育パートナー制度は継続する予定だが、他学年の教員の関わりは薄い。教科横断の意味も含め、全校で総合的な探究の時間に取り組む体制に改善しなければならない。

##### ■学校設定教科「起業探究」の見直し

本事業により、学校設定教科を設置することができ、次年度からは必修科目となる。2年間の内容を見直し、担当が変わっても継続できる仕組みにする必要がある。

##### ■高大連携の拡大

昨年度末、島根県立大学との連携についての打ち合わせを行ってきたが、授業時間の関係で大学生と本校生徒が出会う場を作ることができなかった。総合的な探究の時間の日程見直しを含めて、高大連携のための仕組みを作る必要がある。

##### ■教員等の超過勤務への手続的対応

生徒たちが教育課程外で探究活動を行う場合、引率等を含めて教員は勤務時間外での対応が必要となる。個人の主体的な活動を損なうことなく、教員の対応ができるよう仕組みを検討する必要がある。

#### 【改善点】

##### ■協育パートナーによる地域情報の更新

昨年度から実施した協育パートナーは生徒の活動にメリハリを与え、地域での活動を促進することがわかった。協育パートナーの中でも、何年も生徒の伴走をしてくださった方には、本年度作成した教材の更新を依頼するなどの権限を強化し、持続可能な探究の教材制作の体制を作りたい。

##### ■制作した教材の更新、総合的な探究の時間シラバス見直し

総合的な探究の時間を軸とした教科横断のカリキュラムを形成するためには、総合的な探究の時間のシラバスを見直し、早期に校内で共有を図る必要がある。

■他事業やサービスを参考にした資金獲得の仕組みの模索

地域に出るための交通費や協育パートナー謝金など、本事業終了後も継続するために必要な資金獲得をする必要がある。クラウドファンディングや海外などの事例を元に、資金獲得の仕組みを構築する必要がある。

【担当者】

担当課	島根県教育委員会教育指導課	TEL	0852-22-6085
氏名	馬庭寿美代	FAX	0852-22-6026
職名	企画幹	e-mail	shidou@pref.shimane.lg.jp